

KITAGIN NEWS RELEASE 2025

2025年2月27日

報道機関各位

株式会社北日本銀行
株式会社岩手銀行

第22回「リエゾナー I 研究開発事業化育成資金」の贈呈について ～「いわて産学連携推進協議会（リエゾナー I）」の取組み～

北日本銀行（頭取 石塚恭路）、岩手銀行（頭取 岩山徹）では、両行が参画する「いわて産学連携推進協議会（リエゾナー I）」のおもな活動として取り組んでいる「研究開発事業化育成資金」贈呈事業において、22回目となる今年度の贈呈先を決定しましたので、下記のとおりお知らせします。

記

1. 今年度の贈呈先について

(1) 贈呈先企業

今年度は、6社に対し合わせて800万円の贈呈を行いました。

企業名	代表者	共同研究機関	贈呈金額
(株)ベアレン醸造所	畠田 洋一	農研機構東北農業研究センター	200万円
ONSSI(株)	鈴木 悠地	岩手医科大学	200万円
(株)九戸村総合公社	大久保 勝彦	岩手生物工学研究センター	100万円
(有)バイオケム	村瀬 宜也	一関工業高等専門学校	100万円
NEXT IWATE	上野 裕太郎	一関工業高等専門学校	100万円
(株)Chaos Edge	佐々木 正人	岩手大学	100万円

※ 贈呈対象となった具体的な事業計画等詳細は、別紙『第22回リエゾナー I 研究開発事業化育成資金』贈呈先一覧のとおり

(2) 現在までの贈呈実績

第1回から第22回までの贈呈件数金額は、延べ152件・2億800万円となりました。

(3) 贈呈式の開催

2025年2月26日（水）に岩手大学構内（コラボMIU）で開催され、6社の代表者に認定証の授与および目録の贈呈を行いました。

2. 「いわて産学連携推進協議会（リエゾナー I）」について

(1) 大学等の研究シーズ（新たな技術等）と企業の技術・製品開発等のニーズをマッチングさせることにより新事業の創出を図ることを目的に2004年5月に設立し、現在、3金融機関と10研究機関が参画しています。

(2) 「リエゾナー I マッチングフェア」の開催、北日本銀行と岩手銀行による「リエゾナー I 研究開発事業化育成資金」の贈呈等をおもな活動としています。

3. 「リエゾナー I 研究開発事業化育成資金」の贈呈について

(1) 創設目的

① 企業等が有する技術開発・商品開発のニーズと大学等が有する高度な技術研究成果とを共同研究等を通じてマッチングさせることにより、中小企業の「高付加価値」を通じて「事業の多角化」や「新たなビジネス創出」を積極的に支援するものです。

KITAGIN NEWS RELEASE 2025

② また、この育成資金を呼び水として、企業等が大学等にある「事業の芽」「技術の種」の事業化に向けた研究開発に積極的に取り組むことを期待するものです。

(2) 対象先

- ① 「リエゾン-I」に参加している研究機関との共同研究により新たな事業化を目指している企業等で、企業等の所在地域は、岩手県、青森県、秋田県、宮城県とします。
- ② なお、地域の中小企業支援の観点から、証券取引所上場会社およびそのグループ企業等は、原則として応募できません。
- ③ すでに受賞したことがある企業は原則として申請できませんが、つぎの条件を満たす場合のみ対象とします。
 - a 過去に受賞した事業計画の内容と重複していないこと
 - b 過去に受賞した事業がすべて事業化されていること
- ④ 直近期の決算において債務超過でない企業等とします。ただし、創業から5年以内の企業については、債務超過でも受付を可とします。

(3) 贈呈金額

- ① 年間贈呈額1,500万円を上限とします。
- ② 1先あたり200万円を上限とします。

以 上

【贈呈式の様子：受賞企業の代表者とリエゾン-I支援機関との記念撮影】



<本件に関するお問い合わせ先>

北日本銀行営業統括部 高 橋 TEL：019-653-1111（代表）

岩手銀行地域貢献部 森 田 TEL：019-623-1111（代表）

第22回「リエゾンーⅠ研究開発事業化育成資金」贈呈先一覧

(2025年2月26日贈呈)

- 株式会社ベアレン醸造所
代表者：代表取締役社長 畠田 洋一
住 所：岩手県盛岡市北山1丁目3-31
事業計画名：県産麦芽100%「つなぐビール」の大幅拡大に向けた大麦品種の普及及び品質向上
共同研究者：農研機構東北農業研究センター 畑作園芸研究領域 上級研究員 池永 幸子
研究員 伊藤 裕之
研究員 中丸 観子
計画の要約：「つなぐビールプロジェクト」は、岩手県産原料100%で造るクラフトビールの地産地消を通して、農業と地域経済の活性化を目指します。農研機構や岩手大学クラフトビール部と連携し、県内の遊休農地等を活用したビール麦の栽培から製品化まで、一貫した仕組みを構築。ビール麦の品質向上と安定供給を図るべく、栽培方法の最適化や新品種の開発を進め、事業を拡大していきます。「つなぐビール」(350ml 缶)は今年4月に発売予定です。
贈呈金額：200万円

- ONSSI 株式会社
代表者：代表取締役社長 鈴木 悠地
住 所：岩手県紫波郡矢巾町医大通一丁目1番1号
事業計画名：膵臓癌を標的とした新しいがん治療薬（抗体薬物複合体）の開発
共同研究者：岩手医科大学 医学部内科学講座
リウマチ・膠原病・アレルギー内科 教授 仲 哲治
計画の要約：進行膵臓癌は、抗がん剤に高い抵抗性を示すため、有効な治療法が確立していません。我々は、膵臓癌組織が発現する癌抗原を標的とした、新しいがん治療薬（抗体薬物複合体）の開発に世界で初めて成功しました。この薬剤は、既存の抗がん剤にはない新しい作用機序により、強い抗がん作用を示します。本計画では、この薬剤の臨床試験の実施に向けた事業開発を行います。そして、地方発の新たな医薬品を世界に届けることを目指します。
贈呈金額：200万円

- 株式会社九戸村総合公社
代表者：代表取締役 大久保 勝彦
住 所：岩手県九戸郡九戸村大字山屋2-28-1
事業計画名：新規機能性代用甘味料“甘茶エキス”と“くのへ甘茶のど飴”の開発商品化
共同研究者：岩手生物工学研究センター
計画の要約：甘茶は、砂糖の200-400倍とも言われる甘味成分を含むと同時に、新型コロナウイルスの感染抑制機能を持つ。そこで、甘味と抗ウイルス機能を持つ甘茶エキスを実用化するとともに、のど飴等のエキス利用製品を開発・販売する。エキスやのど飴は、九戸のオドデ館やオンラインショップでの販売を行なう。
贈呈金額：100万円

- 有限会社バイオケム
代表者：代表取締役 村瀬 宜也
住 所：岩手県陸前高田市気仙町字湊109
事業計画名：サケ・ニシン白子抽出物及び酵母由来核酸の免疫活性評価による新規商材の開発
共同研究者：一関工業高等専門学校 未来創造工学科 化学・バイオ系 特任教授 戸谷 一英
計画の要約：サケ・ニシンの白子から抽出したタンパク質・核酸類・ポリアミン類及び酵母由来の核酸の免疫活性を、ヒト由来細胞による免疫活性試験において評価する。これら魚種と成分の濃度効果も含めた組合せの相乗効果を検証し、その効果が期待される製品として弊社製品をアップデートし、新たな営業ツールとしていくことで売り上げの増加に結びつけていく。また、次の試験段階である動物実験用の試薬としての販路も開拓する。
贈呈金額：100万円

○ Next IWATE

代 表 者：代表 上野 裕太郎

住 所：岩手県一関市真柴字中田 36-7

事業計画名：『地域の未来を築く陸上養殖』

持続可能で地域振興を支える閉鎖循環式陸上養殖の事業化

共同研究者：一関工業高等専門学校 未来創造工学科 化学・バイオ系 教授 渡邊 崇

計画の要約：一関高専は技術開発を担い渡邊教授らが開発したオゾン浄化技術（特許）を核とし、一関高専発学生ベンチャー企業である Next IWATE は事業化を担う。本事業では、岩手県雫石町における陸上養殖の事業化をメイン事項とする。既存施設もしくは新設施設においてウニを畜養し、新たな町の資源とすべく取り組んでいく。

贈 呈 金 額：100 万円

○ 株式会社 Chaos Edge

代 表 者：代表取締役 佐々木 正人

住 所：岩手県盛岡市本町通二丁目 15-12

事業計画名：ブロイラー活性レベル測定システム

共同研究者：岩手大学 理工学部システム創成工学科 教授 荻原 義裕

助教 堀田 克哉

計画の要約：飼育環境を最適化し、生存率と増体効率を向上させ出来高を向上させるシステム。行動特性と周辺環境をモニタリングする生態監視システムにより、鶏の活性状態をリアルタイムで測定・分析する。本システムの特徴は、従来の重量測定や画像からのサイズ推定ではなく、鶏の活性レベルをリアルタイムで監視する点にある。これにより、増体に影響した要因が何であったのか、育成成績の取得と並行して評価することができる。

贈 呈 金 額：100 万円

以 上